

第1回

朝鮮人強制動員被害のはなし 東北アジアとの交流で開ける 豊かな未来のために

太平洋戦争前の戦前から戦後にかけて、忠別川流域の東川町内であったといわれる朝鮮人強制労働の実態解明調査を行っている「江卸発電所・忠別川遊水池・朝鮮人強制連行・動員の歴史を掘る会」(近藤伸生代表)は、昨年3月と10月に韓国を訪れ、町内で労働していたというお年寄りを訪ねて当時の様子を聞き取り調査しました。町内の労働実態は果たしてどのようなものだったのか。同会の近藤代表がこれまでの調査経過を報告します。

朝鮮半島出身者への感謝のために

しかし、今日の幸せと将来の発展の背景には、不幸で悲しい歴史があった。江卸発電所建設と忠別川遊水池建設工事に関する、特に朝鮮半島出身労働者たちの苦難の歴史である。

当時朝鮮半島から日本に労働に来る形式は①国家総動員法の適用による強制徴用による②日本の植民地支配を背景とする民間企業の労働者募集への応募の2つがあった。

り実施する予定である。また地元では、朝鮮半島出身者の遺骨と推測される2位以上の遺骨が残っていることも判明し、韓国への返還方法の検討も必要だ。



大雪湧水公園(遊水池)

わたしたちは大雪山という東北アジアでも有数な豊かな自然に囲まれ、道内でも最高品質の米の産地に暮らしている。

東川自慢の米を台湾の消費者が購入し、発展著しい中国からの観光客や日本語を学ぼうとする韓国の若者たちが来訪し、将来のこの地域は東北アジアとの交流によって豊かな未来が展望されている。

江卸発電所は1945(昭和20)年8月運転を開始したが、発電に使われた大雪山の融雪水は水温が低く米作に不向きなため、わざわざ農業用に遊水池が建設された。この遊水池建設で中国人強制連行労働者に多くの犠牲が生まれた事実は遊水池の記念碑に記されているが、中国人による強制労働以前に朝鮮半島の労働者たちがタコ部屋労働を強いられていたものの、その事実はどこにも記録されていない。

わたしたちは東北アジア諸国民との友好と連帯が発展することを切望し、風化してしまわぬうちに過去の歴史を調査することを目指し、町民有志で「江卸発電所・忠別川遊水池朝鮮人強制連行・動員の歴史を掘る会」を結成して調査を開始した。

しかしこれは形式の違いに過ぎず、いずれの場合も劣悪な「タコ部屋」環境で働き、十分な食事も給与も約束通りに支払われなかった、という人々も相当数いたようだ。このような待遇を受けた人々たちにとっては人権侵害も甚だしい強制動員そのものであった。次号から数回に分けて、日韓それぞれの生存者からの聞き取りを整理して報告したい。

これまでに、韓国に生存する動員元労働者については合計6名から、地元地域住民からは10名ほどから聞き取り調査を行ってきた。

韓国での調査は、韓国政府の協力の元で2回に及び、また今後も可能な限

わたしたちの目的は、この地域の発展を東北アジア地域の人々との経済的、人的、文化的交流を深めることで実現することである。そのためには、血と涙の苦勞を背負われた朝鮮半島出身者たちへの労いと感謝の表明が欠かせない。

当時を知る体験者はすでに高齢であり、やがて調査自体も限界に到達する。地域住民の方々にも積極的な情報提供を呼び掛けたい。

江卸発電所・忠別川遊水池・朝鮮人強制連行・動員の歴史を掘る会

代表 近藤伸生